

## 「ねがい」を覆い隠す「評価」のまなざし

服部：4月号で、小学校での暴力行為、いじめが急増していることにはなりました。大学入試改革が打ち出され、中学受験者数がV字回復・急増した時期や、「標準」化、「いま我慢する」力が重視され始めたこととの関連が気になってきます。「自由」が奪われ、「今」のねがいに耳を傾け、本音を出しても受けとめてくれる人、場所がない、という子どもたちの生きづらさが行動やことばの暴力になって表れているように思います。

川地：学校という職場がすごく忙しくなっていて、子どもにも先生にも「形式的にそろえなさい」というプレッシャーが強まるなかで、先生たちもストレスを抱え、子どもたちも自分を受けとめてもらえるような空間として学校をとらえづらくなっています。

服部：小西さんの8.8.9月号では「自己肯定感」が一つのキーワードでした。サキさんの「9歳の誕生日いらん。こんな自分が…」というところ、自分ではどうにもできない困難さをもっている子どもたちのつらさが胸をつきました。

長崎：小学5、6年生へつらいになると、「療育手帳を持っている」「療育に通っている」



# よりあつてほしいまなざし 発達をゆたかに

### 乳幼児期から終末期まで

### 最終回 よりあつてほしいまなざし

本連載の締めくくりとして、連載担当のうち8名と当研究会発足当時から活動を支え引いてこられた山本喜久子さんを交えて連載内容を振り返る座談会を行いました。

参加者 服部敬子（京都府立大学）、星野祥子（発達相談員）、三津本厚子（発達相談員）、長崎純子（ばれっと）、川地亜弥子（神戸大学）、井倉優子（特別支援学校教員）、佐々智子（発達相談員）、安藤史郎（あかつき・ひばり園）、山本喜久子

この意味を大人に聞いてくる子ができず。単に自分ができる—できないという視点だけでなくて、いろんな人を見て、いろんなことに気がつくなかで、自分自身を見つめるようになるのかな。でも、その過程で学校や家庭生活、友だちとの関係のなかで傷ついてばかりだと、できない自分や、できない人がいけないこと、みたいな狭い価値観をもってしまいやすいのだと思います。

佐々：できない自分も含めて、そのままの自分でいられる居場所や「この人が好き・この遊びが好き」というものがあるかどうか、このことは子どもたちが育つ過程でもとても重要な要素だと思います。

星野：誰かが出会わせてくれることも必要です。

安藤：子どもだけの問題ではなく、親の育ちや思い、親を取り巻く子育ての状況からひも解いていかないとダメですね。

服部：子どもの「好き」を親と一緒にくぐらませる、親が子どもを通して社会とつながり自己実現の場を得ていく、というふうになればいいのですが、子どもの姿を通して自分が評価されているような気持ちになると、できなさが許せなくなるような気がします。

長崎：発達障害や自己主張しない子ども、ち

やんと枠組みに入れていくか、課題をこなせているかどうかに焦点が当たってしまいがちで、その子のもつ世界や楽しみ方が理解されにくいと感じます。たとえば、廃材を使って何かを作るのが好きな子がいたのですが、お母さんからすると「それで何になるの?」と。意味のある遊びや価値のあることには思えないようなのです。

川地：「能力」が、その人自身が自由に生きていくためにとか、この子自身が何をしたいと思っているかを支えるために重要、というものはなくなっていると感じます。

三津本：幼い頃はとくに大人にほめられることをしようと思いますが、「こうしたい」「もっと」という反発や試行錯誤をする場面で、「できた」「やり切った」という満足感を実感していくことが必要だと思っ

佐々：12月号で書いたAさんも後日談で「勃発」があります。大学に入学後、Aさんは「友だちは多いほうがいい」というような「指導」



に違和感をもち、それに素直に従う周囲の同調圧力がつらくて通えなくなりました。母は「あなたが希望した大学なのに。社会に出たらそれくらい普通。がんばりなさい!」と。Aさんは決して怠けているわけではないのですが…そこで四者面談をもつことになりました。

星野：家族だけで抱えずに、外に相談できることはいいですよ。

## 「よりあつてほしいまなざし」の意味

安藤：研究会と保育園で事例検討会をしますが、園長先生も含めて園内の職員全員参加で行っていることも大切だと思います。発達相談は個別の仕事になりがちですが、集団で検討すると一人では気づかなかったことに気づけます。

服部：この研究会設立を後押ししてくださった田中昌人先生はよく「ひとりよがりになってはいけない」とおっしゃっていました。研究会メンバーで事前検討し、園でも集団で検討することで問題が多面的にみえてきて「次」を一緒に考えていける、まさに「よりあつてほしいまなざし」です。

川地：検討会をしている保育園で、先生たちが勤務時間内に集まって話すことが定着して